学外研究活動感染リスク審査申請書

大阪大学人間科学研究科

2020年　６月15日版

202１年　４月1日改訂版

学外での研究に際して生じる感染リスクについて

申請者は以下の点に十分に留意して研究計画を立ててください。

１．新型コロナウイルスは、無症状でも人に感染させるリスクがあることに留意し、参加者は、フィールドワーク等学外研究に参加する前、２週間程度は感染リスクを下げる生活に留意すること。

２．訪問先からの訪問受け入れの受諾があること。なお、訪問地域における都道府県外からの越境移動の自粛要請には十分配慮すること。

３．往復移動については、公共交通機関を利用する場合は、通過地での滞在時間を短縮する手段を用い、訪問先によっては予め移動手段を伝え承諾を得ることとする。またやむをえず自家用車・レンタカー・公用車を利用する場合は、交通ルールを順守し、周りの人たちと自分自身の安全に最大限の注意を払うこととする。なお、自家用車を利用する場合には、（１）学研災（通学特約付き：自宅からフィールドまでの移動中の交通事故が補償される）に加入していることを確認しておくこと、および（２）任意保険（※「対人・対物無制限」とする）への加入に関して、証券の写しを提出して確認を受けること。学振特別研究員の出張旅費の支給可否については、別途判断する。

４．フィールドワーク等学外研究のための準備、移動、現地での活動、帰還の各段階において、感染予防を徹底できること。

具体的には、下記を回避できることが確認できること。

（１） 換気が十分でない空間での同室

（２） マスク非着用での会話

（３） 一緒に食事

（４） 身体的な接触や物品の共用

５．学生は、指導教員にフィールドワーク等学外研究実施前後の健康状態を報告すること。

６．フィールドワーク等学外研究の内容に応じて、最適な感染予防措置を講じることができるように、指導教員が周知徹底すること。

学生・教員が感染者の少ない他府県に出かけて人に感染させるという事態が発生すると、現地の人々へのご迷惑はもとより、報道等からの注目も集まるため、慎重の上にも慎重に進めること。

学外研究活動による感染リスクチェックシート

提出日：　　　　　　　　年　　　　月　　　　日（全学の基準：　　　　　）

許可日：　　　　　　　　年　　　　月　　　　日（全学の基準：　　　　　）

|  |
| --- |
| 申請者の所属　　　[ ] 行動系　[ ] 社会系　[ ] 教育系　[ ] 共生学系　[ ] 附属未来共創センター  |
| 研究分野名 | 職または学年 | 指導教員名（大学院生・学部生の場合）と承認(自署) |
| 申請者氏名 | 研究課題名 |
| 研究概要 |  |
| 確認 | 下記の記載事項に相違なく、感染防止に努めます。署名 |

1．移動先と期間

|  |
| --- |
|[ ]  府内　　　　　　年　　　月　　　日から　　　　　年　　　月　　　日まで（　　　　日間） |
|[ ]  府外国内　　場所（市町村まで）：年　　　月　　　日から　　　　　年　　　月　　　日まで（　　　　日間）移動先都道府県の10万人あたり感染者数（申請時） |
| →県外からの流入規制 | [ ]  あり | [ ]  なし |
|[ ]  海外　　　年　月　　日から　　　　年　　月　　日まで（　　　　日間）渡航先国・地域： |
| →渡航先の危険度（外務省） | レベル　　　　 |

[ ] その他、移動先から提示されている感染対策があれば書面を添付

2．感染を抑制する移動方法（往路・復路：原則、公共交通機関を使うこと）

|  |
| --- |
|[ ]  公共交通機関 鉄道、バス、航空機 |
|[ ]  自家用車 |
|  | 　[ ] 　学研災の確認(該当者のみ) |
|  | 　[ ] 　任意保険(書類添付) |
|[ ]  レンタカ-(対人・対物無制限の補償付き) |
|[ ]  タクシー |
|[ ]  徒歩・自転車 |

3．研究を実施する場所

|  |
| --- |
|[ ]  施設内 |
|  | 施設名：（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
|  | [ ] 　相手側から許諾が必要 |
|[ ]  屋外 |
|  | 実施場所の概要 |  |

4．研究において接触する可能性のある人・動物

|  |
| --- |
|[ ]  感染すると重症化するリスクのある人を含む |
|[ ]  感染すると重症化するリスクのある人を含むかどうかわからない |
|[ ]  感染する可能性のある動物を含む |
|[ ]  子どもを含む |
|[ ]  多数の人（10人以上）と同時に接触する可能性がある |

5．人・動物との接触の仕方

|  |
| --- |
|[ ]  研究上、3密に近い環境を作る必要がある |
|  | 対策 |  |
|[ ]  研究上、3密に近い環境の中での作業がある |
|  | 対策 |  |
|[ ]  30分以上接近した距離で話をするなど濃厚接触となることが頻繁にある |
|  | 対策 |  |
|[ ]  30分以上接近した距離で話をするなど濃厚接触となることが稀にある |
|  | 対策 |  |
|[ ]  濃厚接触に該当するような可能性はない |

６．フィールドワーク実施中に接触した人々の記録

|  |
| --- |
|[ ]  研究者はフィールドワーク実施中、参加者と接触した人々について記録できる |
|  | できない場合の対策（感染が発生した場合濃厚接触者の追跡方法） |
|  |  |

７．研究者・研究参加者の感染リスクセルフアセスメント

|  |
| --- |
|[ ]  研究者・研究参加者ともに下記の感染リスクセルフアセスメントを実施し、各自署名できますか？また、感染により重篤化するリスクが高い参加者、感染リスクが高い参加者については参加を見合わせるステップを組み込んでいますか？ |
|  | セルフアセスメント1. 下記に該当しますか？

[ ]  65歳以上[ ] 次のような基礎疾患をもっている。（ぜんそく、肝臓病、慢性腎不全、慢性肺疾患、糖尿病、心臓病、ヘモグロビン病、肥満症、免疫不全）[ ] 介護施設・医療施設で働いている。２）過去１４日間以内に、感染が確定した人と２メートル以内の距離で５分以上接触したか、あるいは直接唾液などの飛沫に触れましたか。はい　　　　　　いいえ３）過去４８時間以内に次の症状のうちいずれかを新たに発症しましたか。発熱または悪寒や発汗　　　はい　　　　　　いいえ悪寒による体の震え　　　　はい　　　　　　いいえ筋肉痛　　　　　　　　　　はい　　　　　　いいえ喉の痛み　　　　　　　　　はい　　　　　　いいえ味覚・嗅覚の異常　　　　　はい　　　　　　いいえ吐き気、嘔吐、下痢　　　　はい　　　　　　いいえ頭痛　　　　　　　　　　　はい　　　　　　いいえ**※2）と3）については、調査研究が２週間以上の長期にわたる場合、申請時のみならず調査途中で随時アセスメントの手順を踏むようにしてください。** |
|  | できない場合の対策（感染リスクの評価方法） |

８．研究活動中の消毒

|  |
| --- |
|[ ]  研究者は研究活動中、自身及び研究参加者の手指・物品の消毒を頻繁に実施する |
|  | できない場合の対策 |
|  |  |